

## 御殿場市 総合児童施設 富岳保育園 園長 勝又愛志先生

令和三年四月一日より富岳保育園（定員一四〇名）と児童発達支援センター富岳学園（定員四〇名）を合併させた全国でも珍しい総合児童施設がオープンしました。長年の願望であった幼児教育の保育計画を実践する保育園と、障害の早期発見・早期療育を掲げTEACCHプログラムやムーブメントエデュケーションプログラム、療育目的別クラス編成などをミックスした療育で効果を上げてい



る児童発達支援センターがそれぞれの強みを生かして一つになりインクルーシブ保育を展開しています。

理事長である山内剛先生は富岳式インクルーシブ保育とは「子どもの国籍・年齢・発達段階の障害の有無などの違いに関わらず、どのような背景を持った子どもでも包括的に受け入れる保育です。そして保育園と児童発達支援センターの持つ、それぞれの特徴を生かしつつ、子どもの多様性に合わせ保育の枠組みを柔軟に変えることのできるオールタイム保育、サムタイム保育、ちゃむあつぷ（仲良し）タイムなどの特別な保育を行うことができるのが富岳式の特徴です。」と講演会や研修会でお話されています。

オールタイム保育とは地域の保育所や幼稚園への移行や就学に向け、一日を通して富岳保育園の子ども達と生活を共にし大集団での生活を体験します。逆に富岳保育園の在園児で発達の気になる子は、富岳学園で小集団での生活を通し、お子様にあった療育を受けることができます。サムタイム保育とはオールタイム保育の一日を通してでなく、子どもの個性・特性を引き出す為に、また特別な支援を定期的に受ける為に、個人

的な交流を通して二園の専門性を共有します。ちゃむあつぷタイムとは二園の壁を外し、様々な遊びを子ども達自ら展開し、子ども同士の関わりの中で沢山の喜びや学びのある時間にしていきます。

子ども達には、この総合施設を通して先ず「人には違いがある」を知ることができ、年中・年長児になれば周囲を見る目が育ち、協力や助け合い、譲り合い等の人との関わりを身に付けることができます。幼少期から障害のある子や外人の子、異年齢の子達と多種多様な人達と生活することで、抵抗力・免疫力がつき偏見や差別がなくなり、いじめの無い社会へ繋がります。幼児期のインクルーシブ教育は「人を差別しない大人」への第一歩となることを強く期待されています。

